

令和6年度版

動物通信

生きものを飼うということ



はじめに	1
1 動物を飼うということ	3
2 動物と暮らす前に	7
3 健康について	9
4 動物の老いと向き合う	11
おわりに	14

令和7年2月
杉並区

はじめに

生きものを飼うということは、私たち人間におもちゃやゲームでは味わえないような大変楽しい経験をさせてくれます。日本は少子高齢化しょうしこうれいかといって子どもの数が減って、お年寄りの数がますます増えていく時代に突入しています。そのような世の中において、ペットの存在は大変重要です。ペットは、子どもにとっては兄弟やお友達の代わりになってくれたり、大人にとっては愛情を注いで一緒に生きていく伴侶はんりよになってくれる存在でもあります。私たち人間が長いこと一緒に暮らしてきたペットは、その環境に順応して飼い主のために精一杯の愛情を返してくれます。そのような愛くるしいペット達は飼い主を選ぶことはできません。そのため、飼い主である人間がしっかりした飼い方を理解して、ペットたちの一生について最期さいごまで面倒を見てあげなければならないのです。

この冊子の内容を参考にして、ペットとの暮らしを、飼っていく家族みんながよく話し合っって築いていってください。そうすれば、それぞれのおうちの事情や環境の中でペットたちは幸せな暮らしができると思います。



1 動物を飼うということ

人はなゼイヌ・ネコやウサギ・トリなどの動物を飼育するのでしょう。すがたや動きがかわいい、さわると気持ちがいいなどの理由で飼っている人もいます。でもそれだけなら、動くぬいぐるみでも十分なはずです。人間は古くからいろいろな動物と深い関わりをもってユニークな共生をしてきました。

人と動物との関わりについて勉強し、動物を飼うにあたっての責任や義務を知りましょう。そのうえで飼育すれば、私たちはこの上ない楽しさや喜び、やすらぎや癒し^{いやす}をえることができ、動物は健やかで平和な生活を送ることができます。

・人と動物との関わり

その関係にはいろいろな見方がありますが、「野生動物」と「飼育動物」の2つに分けることもできます。野生動物は自然に生育する動物です。本来その動物の生活に人は直接関わらない動物群です。もう一方の飼育動物は、出産や食餌^{しょくじ}などの世話を人が行っている動物群ですから、自然の中だけでは生活できず、何らかの形で人と関わらなければ生きていくことができません。さらに飼育動物は、人の生活のためにその命と福祉を尊重されながら飼育されているウシ、ブタ、ニワトリ^{かちく}といった家畜等の「産業動物」と、家庭などで飼育されている「愛玩動物(ペット・伴侶動物)」^{あいがん}に分類できます。杉並区で暮らしている私たちが日常ふれる動物のほとんどが、この愛玩動物^{あいがん}ではないでしょうか。



・飼育動物とは

人は、有史^{ゆうし}以前から自然の中で多くの動植物と生活を共にしてきました。時間と空間を共有してきたと言ったほうがよいかもしれません。動物を見ていると安心する人も多いと思います。それは、昔から動物がくつろいでいれば、注意を要する事態ではなさそうだと安心していただけかもしれません。

動物との共生生活は、3万年前の石器時代まで証明されています。日本でも、約1万年前のイヌの墓が発見されています。

動物を飼う歴史はオオカミとの関係で始まったといわれています。オオカミから見れば、人のそばなら食餌^{しょくじ}にありつけます。一方、人の住居に近づくものに対してオオカミがほえることで、人は危険を察知することが可能になりますので、おたがいに利益のある共生関係が生まれました。そして、オオカミが家畜化^{かちくか}されてイヌになり、人の狩り^かを助けることでさらにその関係は強まっていったと考えられています。

飼育動物の多くは1万5千年～5千年前に飼育しやすく変化していき、その動物についての理解も進んでいます。

・愛玩動物と暮らす^{あいがん}

動物たちとの暮らしは楽しいですね。実際に飼わなくても見ているだけで、心が癒^{いや}されたり、うきうきしたりする人も多いでしょう。ちょっとしたしぐさや目の動きはとてかわいく、さっそうと走る姿はかっこよくほれほれします。イヌやネコなど人に長く飼われてきた動物をはじめ、いろいろな動物の愛らしさに心

をうばわれて、つい飼いたくなります。

ともに生活していると、うれしいときや楽しいときはもちろん、つまらないときや悲しいとき、心が落ち込んだときも、そっとあなたに寄りそい、心を癒^{いや}して元気づけてくれることでしょう。しかし、動物を家族の一員に迎え入れることは楽しいことばかりではありません。動物を飼うには心構えも必要です。



2 動物と暮らす前に

動物は賢く、人間を理解し信頼してくれます。人間も動物の特性や習性について学び、理解することでより良い関係を築くことができます。動物を飼育するということは大きな責任が伴うことも知っておく必要があります。だからこそ、その動物の特性や習性をよく理解して、付き合わなければなりません。さらに、飼育していくとその動物の個性もわかってきます。

あなたは、その動物の一生を見守ってあげられますか。もし、その動物を手放さなければならなくなってしまうたら、あなたもその動物もとても悲しい思いをするでしょう。

ですから、動物を飼う前に次のようなことについて家族全員が同意するまでよく話し合しましょう。また、一人で飼育することはとても難しいことですから、必ず家族全員で協力しながら飼育するようにしましょう。

・目的と生活様式・動物の特性や習性

外で思いっきり遊ぶのが好きならイヌがよいでしょうし、家の中でのんびり過ごす時間が多いならネコの方がよいかもしれません。ハムスターならば自分の部屋で飼育することも可能です。

どんな目的で飼うのか、それが自分たちの生活様式に合っているのかをよく話し合しましょう。

・動物の一生にわたる計画

動物が家庭に来たときはしつけが必要です。青年期になれば活発に動き回るので、たくさん遊ぶことが大切です。やがて年を取り、重い病気になることだってあります。動物だけではありません。小学生のときに飼い始めても数年後には中学生です。受験勉強やクラブ活動などで世話をするのが、難しくなるかもしれません。飼おうとしている動物が小型犬やネコなら15年以上生きることも多く、そのころにはあなたも社会人になっているでしょう。

動物は、あなただけをたよりに生きています。動物は、あなたの都合に合わせることはできません。動物の一生をよく考えてから、飼いましょう。

・その他の大切なこと

じゅうかんきょう
住環境もとても大切なことのひとつです。場合によっては近所に迷わくをかけることになるかもしれません。例えば、鳴き声やにおい、ぬけ毛などが原因になります。そのため、飼育を禁止しているマンション・アパートもあります。さらに、食費や健康管理費などのけいざいてきふたん経済的負担、時間や体力など他にも考えなければならないことがたくさんあります。

3 健康について

・毎日が健康管理

飼育する動物の特性や病気・けがのことをよく知り、適正に飼うことが健康管理の出発点です。近づいたとき変わったにおいはないか、皮膚や粘膜の色はどうか、食餌をあげたときいつもと同じように食べるか、散歩や遊んだときの動きはどうか、楽しそうか、顔をのぞきこんだときに目やにや鼻水は出ていないか、さわったときにいやがらないかなど、ちょっとだけ注意をはらうと動物たちの態度や体調の変化に気づくはずです。すなわち、毎日の世話が健康管理となるのです。何か気になることがあれば、早期に動物病院の指導を受けましょう。

・積極的な健康管理

きょうけんびょうよぼう 予防接種や寄生虫駆除剤投与などが
あります。また、子を望まない場合は不妊・去勢手術を受けましょ
う。おだやかな性格になることが多く、高齢期に多い生殖器の病
気にもなりにくくなります。さらに、定期的に動物病院にみても
らうなど、病気を未然に防ぐこと、早期に発見することを心がけ
ましょう。

・食餌も健康管理

その動物（動物種・年齢・健康状態など）に合った食餌を用意
しましょう。また、量や固さ、時間や回数なども重要です。例えば、
人の食べ物をあげない、子犬のときは子犬用の食餌を一日数回に

分けてあげる、病気のときや予防には処方食^{しよほうしよく}※をあげるなどです。

・しつけの役割

しつけは、動物とコミュニケーションをとるための重要な役割を果たし、健康管理のうえで欠かせません。毎日歯磨きができるようにしつけておくと、歯の病気と口の中の病気を早く見つけることができるようになります。

・高齢動物^{こうれい}

活発に活動していた動物も、年を重ね、知らず知らずのうちにおとろえてきます。そうになると今まで平気だったことも体に負担になったり、消化不良を起こしたり病気になりやすくなったりします。少しでも健やかな生活を長く続けるためには、若いときからの適正な飼育が大切です。定期的に病気の予防^{しよくじ}や食餌、健康について動物病院に相談しましょう。



^{しよほうしよく}※：処方食とは、^{しよくじ}獣医師の指導に基づいてあたえる特別な食餌

4 動物の老いと向き合う

杉並区では、毎年獣医師会が、16歳以上のイヌとネコに表彰状を渡しています。昨年はイヌが227頭（最高齢20歳）、ネコが287頭（最高齢24歳）でした。実際には、もっと多くの高齢のイヌ、ネコたちが私たちのそばで暮らしていると考えられます。

イヌやネコは、人間と比べて早く歳をとります。歳をとると重い病気ではなくても、前にできたことができなくなります。高い所や階段が苦手になって登れなくなったり、駆け回ることができなくなったりします。人のようにシワは見えませんが、よく見ると以前に比べて、毛が細くなったり、白くなったり、近くで見ている飼い主にはよく分かります。ときには、目やにが出たり、口が臭くなったり、おしっこを決められた場所でできなくなったりする場合があります。動物たちは、歳をとったことや見た目が変わったことをどのように感じているのでしょうか。毛が白くなっても、目が見にくくなっても、耳が遠くなっても、あまり気にしないのかもしれませんが、足や腰、歯の痛みは黙って我慢しているだけかもしれません。そのようなとき、私たちはそばでどうやって支えてあげたらよいのでしょうか。何ができるのでしょうか。

歩くのがつらそうだったり、目が見えにくそうだったり、歯が悪くなって食べにくそうだったりした場合は、動物病院に相談してください。健康なときも、予防や健康診断などで動物病院に行っていたら、より相談しやすいと思います。幸いにも、杉並区には

多くの動物病院があります。

また、夜間に診察^{しんさつ}してくれるところや、目の病気を専門^{せんもんてき}的に診^みてくれるところ、リハビリテーション（病気の治療^{ちりょう}だけではなく、飼い主と穏^{おだ}やかに生活するためのアドバイスなどをする）を行う動物病院もあります。

そして、動物病院でできること、家でできることを考えてください。人と同じような治療が有効なこともあれば、同じようにいかないこともあります。ご飯を食べやすくしたり、段差^{だんさ}をなくして歩きやすいようにしたり、家で楽になるように工夫できることがあります。私たちのイヌやネコが、なるべく痛み^{いた}や苦しみを感^いじず、穏^{おだ}やかに飼い主のそばで歳^{とし}をとることができるよう、よく考えて決めてあげられるのは、ずっとそばで見てきた飼い主なのです。

悲しいことですが、私たちは必ずやってくる動物の死と向き合わなければなりません。それでも、私たちがきちんと動物の老いや病気と向き合^あって、動物の身^みになって考え、最期^{さいご}を迎^{むか}えさせてあげられたら、その悲しみはやがて癒^いえて、楽しかった思い出の方が大きくなります。そのとき、動物と一緒に過^{いっしょ}ごした時間、たくさんの出来事が自分の財産になるはずです。それは、学校で勉強したり、友達と遊んだり、家族で旅行に行ったりした思い出と同じくらいに、かけがえのない大切なものになるでしょう。



おわりに

最近の日本は温暖化といって昔より気温の高い気候が続いています。動物たちは自分で温度管理をすることはできません。今後、特に夏の暑さに対しては冷房がないと過ごせない日々が続いてしまうかもしれません。

特に幼い動物や高齡の動物については温度管理が重要になると思います。

動物を飼ううえで最近の事情に配慮して、自分のことだけでなく家の周りの環境や人のことも考えて飼い方を今一度考えてください。そして、動物にとっても飼い主にとってもすばらしい生活を送れるようになることを祈っています。



あとがき

この動物通信は、毎年、杉並区獣医師会が書いているもので、動物に関する様々な題材を取り上げています。過去に発行された動物通信は、杉並区獣医師会ホームページで見ることができます。

杉並区民の方々の、動物の飼育の手助けになれば幸いです。

編集

公益社団法人 東京都獣医師会杉並支部

ホームページ

(URL) <https://www.s-vet.com>

(イラスト協力)

女子美術大学芸術学部

アート・デザイン表現学科

ヒーリング表現領域 石川 莉里衣

獣医師会会員 動物病院案内 (町名順)

阿佐谷ペットクリニック	阿佐谷北 4-1-2	3330-3020
グリム動物病院	阿佐谷南 3-5-1	3393-2624
ちやふるペットクリニック	天沼 3-23-34	6240-6377
いぐさ動物病院	井草 1-31-16	3397-7115
たかぎ動物病院	井草 1-35-4	5382-1233
ひがしやま動物病院	和泉 2-33-22	3322-8338
さくら動物病院	今川 4-20-11	3301-7800
ハナ動物病院	梅里 2-28-4	5913-8241
パル動物病院	永福 3-51-13	5376-5344
永福あにまるクリニック	永福 4-22-6-1B	5329-1255
天野動物病院	大宮 1-2-3	3325-6798
米川動物病院	荻窪 3-12-5	3398-1141
ガラス動物病院	荻窪 5-4-9	3220-2717
K's どうぶつ病院	上井草 3-1-19	3395-1947
荻窪ツイン動物病院	上荻 1-23-18	3220-1122
もりぞう動物病院	上荻 2-21-25	6915-0035
エルムス動物医療センター	上高井戸 1-14-4	3304-4090
久我山動物病院	久我山 5-33-20	3331-0960
オハナ動物病院	高円寺北 3-23-6 1F	5364-0203
アイルペットクリニック	高円寺南 1-24-11-101	5929-7817
高円寺アニマルクリニック	高円寺南 2-14-14	3311-1014
広瀬獣医科病院	下井草 2-4-10	3394-0116
小金井動物病院	下井草 3-32-10	3390-8794
東京動物医療センター	松庵 2-19-15	3331-3381
鈴木動物クリニック	善福寺 2-30-5	5382-8707
ミ・サ・キ・動物病院	高井戸東 2-25-8	5370-1013
浜田山かじわら動物病院	高井戸東 3-1-25	3290-1239
しん・どうぶつびょういん	高井戸東 4-9-1	5336-3721
成田犬猫病院	成田東 3-2-3	3315-5300
小張獣医科病院	西荻北 2-13-3	3390-6025
ブルーミントン動物病院	西荻南 2-22-11	5941-9711
マスナガ動物病院	浜田山 4-11-12	5378-1014
塩田動物病院	南荻窪 1-21- 2都コーポ	3332-2310
なかむらペットクリニック	南荻窪 4-22-6-1F	5370-6070
みやまえ動物病院	宮前 3-9-1	5344-1677
D&C Physical Therapy	和田 3-60-10	3311-8888
安達動物病院	和田 3-60-11	3311-5678

動物通信 生きものを飼うということ

令和6年度版

令和7年2月発行

発行・監修

杉並区杉並保健所生活衛生課

〒167-0051 杉並区荻窪5-20-1 電話 03(3391)1991

☆杉並区のホームページでご覧になれます

<https://www.city.suginami.tokyo.jp>

登録印刷物番号

06-0104



R40

古紙配合率40%再生紙